

トチノキの巨木群に出会った！

10月18日、高島市朽木琵琶湖の源流「針畑川」最上流に点在する生杉の集落は、雲一つない晴天に恵まれた。当日の参加者は24名（内子ども12名）、ガイドの山田さん、中西さん、平和堂財団から乾さん、びわ湖トラストから事務局長の熊谷、氏家、清水の合計30名。準備運動、注意事項の後、点呼を済ませて、山村都市交流施設「山帰来」（さんきらい）を出発。目指すのは、「中牧トチノキ巨木群」。針畑地区の郷社である「日吉神社」の大鳥居を右手に見ながら谷川沿いを尾根道が続く。かなりの急勾配で、早朝の寒さ（ちなみに現地は5℃）で着込んできた参加者も、すぐに汗ばんできた。途中、小



休止を繰り返しながら、約50分、ようやく、トチノキの巨木群生地に到着。朽木には多くの巨木群があるが、中牧巨木群の特徴は、比較的狭い地域に31本の巨木(直径3～6m)が集中していること。樹齢は3、400年と推定。トチノキは典型的な畦畔木であり、この谷の名前はミズ谷と呼ばれ、中牧の共有林であり、神社の裏山、神聖な場所として守られてきた経緯があります。また、栃の実には救荒植物（飢饉の際に救助する植物）として知られ、こういったことで今日まで、朽木の各地でトチノキが残されてきたのではないかと考えられています。朽木西小学校（在校生7名）



では、生徒たちは自分の好みの木に名前を付け、毎年栃の実を拾い、11月の感謝祭で栃餅を作っているとのこと。

巨木の下のかなだらかな傾斜地では、子ども達はさすがに元気いっぱい。早速木登りや栃の実拾いに興じ、あっという間に30分が経過。お決まりの記念写真は、巨木を背景に、「ハイ、チーズではなく、ハイ ト、ラ、ス、ト」。帰路は滑りやすく登りよりも、下り道がむしろ危険。ホオの落ち葉を踏みしめながら、全員無事に日吉神社に（お尻に土の付いている人がチラホラ）。山帰来までは歩いて3分程度。



て3分程度。

真っ青な秋晴れの下、昼食を済ませ、全員が木工体験へ。トチノキやクリなどを使ったバターナイフやスプーン作り、最初は要領がわからず、手ほどきを受ける間に、だんだん上手に「これ、ハマりますね」とお母さん。

丹念に磨かれたナイフに蜜蝋を塗ってもらって最後の仕上げ。午後4時前、平和堂財団の乾さんにご挨拶をいただいて解散。山間の集落は早くも日が落ちて山陰に、お疲れ様でした。

（文責 清水）

